

JICA保健医療ニュースレター 「保健だより」第66号

2024年8月30日発行

立秋とは名ばかりでいまだ厳しい暑さが続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今月の保健だよりでは、マニラで開催された第14回母子手帳国際会議、ブラジルのゲノムモニタリングの国別研修、ラオスの看護人材育成の協力など様々な保健医療分野のニュースを紹介しております。また、11月に予定されているThe 8th Global Symposium on Health Systems Research 2024(HSR2024)に先立ち開催された「保健政策・システム研究(Health Policy and Systems Research:HPSR)の最前線」セミナーの様子もまとめております。盛りだくさんの内容となっておりますので、ぜひご一読ください！

目次

- ◆ 第14回母子手帳国際会議の報告 1
- ◆ ブラジル国別研修「病原体ゲノムモニタリング研修」を実施しました 2
- ◆ ラオス:国際看護の日セレモニーとJICAの保健人材育成に係るこれまでの協力 3
- ◆ 研究所セミナー「保健政策・システム研究(Health Policy and Systems Research:HPSR)の最前線」報告 4
- ◆ HSR2024シンポジウムに向けて
- ◆ ゆくひとくるひと
- ◆ 保健グループ What's Up
- ◆ おまけ写真 第14回母子手帳国際会議の様子
- ◆ 編集後記 5

第14回母子手帳国際会議の報告

2024年5月9日・10日、フィリピン・マニラで第14回母子手帳国際会議¹(主催:国際母子手帳委員会、フィリピン大学マニラ校、第IV-A 地域:Calabarzon保健開発センター)が開催されました。第1回母子保健地域会議「Safe beginning」との合同開催で、約430名(現地参加:230名、オンライン参加:200名)の保健省・大学関係者・実務者が参加しました。地方分権下のフィリピンでの開催という特徴を活かし、保健地域会合と初のコラボとなった母子手帳国際会議といえます。JICAからは人間開発部亀井部長(オンライン)が、JICAのグローバルアジェンダと母子保健クラスター戦略を説明し、自身とお子さんの二冊の母子手帳を画面越しに紹介しました(会場ではわっと声が上がりました)。また、尾崎国際協力専門員が登壇し、WHO-UNICEF-JICA作成の実施ガイド²とその活用事例を紹介しました。さらに、主催者の依頼でJICAからはアフリカでの支援事例を紹介しました。アング



国際協力専門員・尾崎によるWHO-UNICEF-JICAの実施ガイドとその活用事例の発表

ラ(定森氏:オンライン)、ブルンジ(Oscar氏)、ガボン(Aganga氏、渡邊氏:オンライン)が登壇し、母子手帳の全国展開の工程について、あるいは実施の強化に向けた分析、改訂などについて発表しました。さらにタジキスタンプロジェクトからも現地参加があり、自国の母子手帳の活用にむけ他国参加者から積極的に聞き取りを行いました。フィリピンCalabarzonの母子保健課題の議論や、各国の母子手帳の活用にに向けた報告と議論で構成されたセッションを経て、マニラ宣言を採択して終了しました。
(国際協力専門員 尾崎敬子)



Oscar氏によるブルンジの発表



国際協力専門員・尾崎とタジキスタン関係者(NS・保健省・Family Medicine Center)

1. 関連サイト:<https://conference.mchhandbook.com/testimonials/>
2. 関連サイト:<https://www.who.int/publications/i/item/9789240060586>

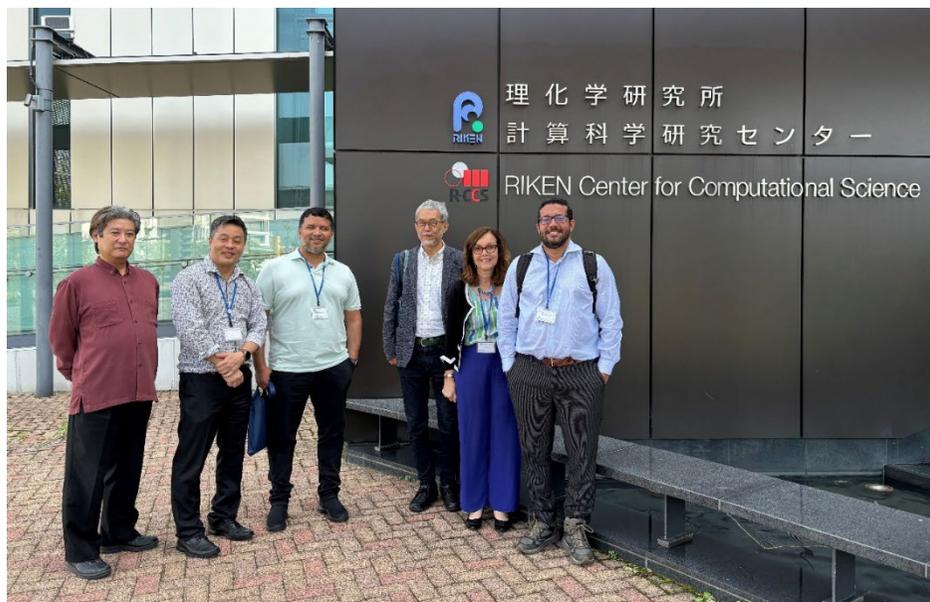
ブラジル国別研修「病原体ゲノムモニタリング研修」を実施しました

現在ブラジルでは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）及び世界的流行を引き起こす可能性のある他の感染症に対する、効果的かつ迅速性の高いゲノム・モニタリング・ネットワークが対象地域において確立されることを目標にした「新型コロナウイルス感染症にかかるゲノム・モニタリング・ネットワーク強化プロジェクト」（2023年8月～2027年8月）を実施中です。同プロジェクトの一環として、2024年5月に実施した3週間の本邦研修に、カウンターパートであるブラジル連邦保健局傘下オズワルドクルズ財団（FIOCRUZ）研究所の幹部研究員4名が参加しました。

本研修の目的は、日本のゲノムサーベイランスシステムを理解し、研究機関との情報共有や人的交流によりプロジェクトとその先を見据えた協力基盤を構築することです。プロジェクトの板村繁之チーフ・アドバイザー（国立感染症研究所）主導のもと、国立感染症研究所や神奈川県衛生研究所において、インフルエンザを含む呼吸器系ウイルス、アルボウイルス感染症サーベイランスの全体像、病原体診断とゲノムサーベイランス、基礎研究についての講義を受け、意見交換をしました。国や地方の感染症対策を担う機関としての研究活動、組織運営について知見を深めました。また、日本国内外の感染症・疫



ブラジルの状況を発表する研修員



理化学研究所でスーパーコンピュータ富岳を見学しました

学研究を行うアカデミアの講義を受け、国立遺伝学研究所、理化学研究所、一般財団法人阪大微生物病研究会の見学をしました。これらを通じてゲノムサーベイランスの基盤となる疫学研究、感染症の制圧に必須である技術的課題や解析手法のほか遺伝子データベースに関する課題、膨大な遺伝子配列の解析手法やスーパーコンピュータの有用性、パンデミック時における共同研究体制の構築、感染症対策の有効手段であるワクチン開発・製造の実際などを学び、研究者との活発な議論がなされました。これらの内容は本プロジェクトを遂行する上で極めて重要なもので、今後の活動に大いに寄与すること

が期待されます。本研修を通じて、対象地域における感染症ゲノムモニタリングに関する課題を確認し、本プロジェクトを推進するために有用な知識について共通理解を深めることができました。

実はもう1名研修員が参加する予定でしたが、ブラジル南部において4月に発生した豪雨により道路が寸断され、残念ながら参加が叶いませんでした。大規模な洪水により寸断されたインフラの復旧に時間を要し、感染症の蔓延等二次被害が危惧される状況に、本プロジェクトがいち早く貢献できるよう協力していきたいと思えます。

（保健1チーム 井上）

ラオス：国際看護の日セレモニーとJICAの保健人材育成に係るこれまでの協力

5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由来して「国際看護師の日」と制定されています。

2024年6月4日にラオス保健省のPhayvanh Keopaseuth副大臣が議長を務め、国際看護師・助産師の日を祝うセレモニーが首都ビエンチャンで開催されました。

病院、保健省、看護・助産教育機関から180名を超える参加者が集まった中、JICAラオス事務所の伊藤教之次長も参加し、JICAのラオスへの継続的な支援を振り返り、保健分野での関係者の多大な

努力に祝辞が述べられました。

このセレモニーは、看護・助産業務範囲ガイドラインを含む法令の重要性についての認識を高めると同時に、免許登録の進捗状況、今後の継続教育(以下、CPD)計画を共有することを目的としています。保健省保健人材局(Department of Health Personnel、以下DHP)の参加者は、CPDシステム全体の進捗状況を共有することから始まり、国際的な経験から学んだ教訓と潜在的な課題、その解決策について議論しました。

JICAは過去20年かけてラオスでの保健人材開発を支援しており、成果として看護師・助産師を対象とした国家試験が実施され、国家免許が交付されるようになりました¹。

Phayvanh Keopaseuth副大臣は閉会の辞で、JICAがラオス南部4県で実施している技術協力プロジェクト²から始まり、現在では全国に展開されている保健医療施設評価のための国家基準³にも言及し、標準化された質の高い医療サービスの提供を続けることが重要と強調しました。2024年1月からは技術協力プロジェクト「看護師・助産師継続教育制度整備プロジェクト」(以下、CPDプロジェクト)が開始し、ラオスにおける看護師・助産師の免許・登録制度が実現可能な形で確立され、維持されるよう協力を行っています。



DHPのSengmany副局長は、JICAの支援による免許制度の実現について述べました



JICAラオス事務所伊藤教之次長(左端)は、ステークホルダー間の協力関係に感謝の意を表しました



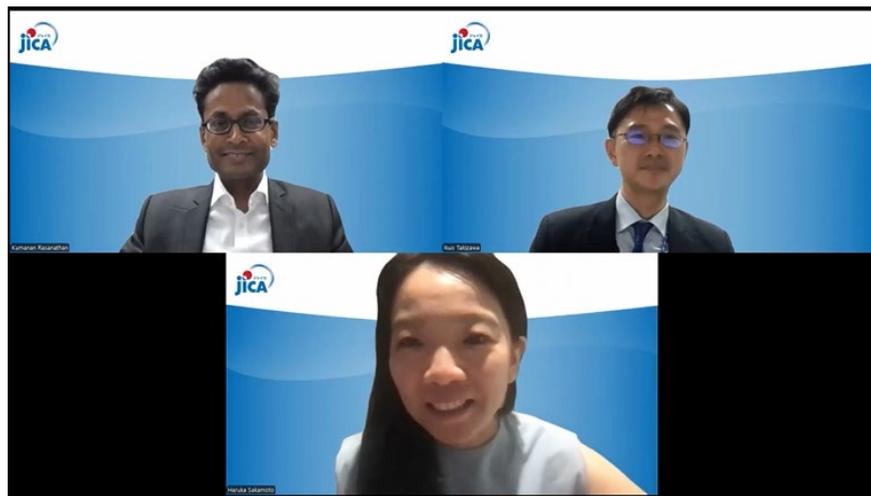
地方の病院から看護師と助産師が集まって話し合います



看護師免許を受け取った看護師たち

(提供:CPDプロジェクト、文責:保健4チーム 足田愛里香)

1. 「持続可能な保健人材開発・質保証制度整備プロジェクト」(2018年7月～2023年12月)ではラオス初の新人看護師免許が付与されました。<https://www.jica.go.jp/oda/project/1600279/news/20230106.html>
2. 「病院の保健医療サービスの質および財務管理改善プロジェクト」(2022年3月～2025年3月)<https://www.jica.go.jp/oda/project/2005066/index.html>
3. 5G1S Standards for health facilities; 5G1Sとは、「病院の5つの強み(5 Goods)と患者満足(1 Satisfaction)」すなわち、「おもてなし」「利便性」「清潔さ」「迅速で正確な診断」「適切で効果的な治療」「患者の満足度」を意味しています。



質疑応答の様子

JICAと長崎大学は日本の協力機関およびHealth Systems Globalと共に、2024年11月に [The 8th Global Symposium on Health Systems Research 2024 \(HSR2024\)](#) を開催します。JICA緒方貞子平和開発研究所(緒方研究所)はHSR2024に向けて5月17日にセミナー「[保健政策・システム研究\(HPSR\)の最前線](#)」を開催しました。セミナーでは、低中所得国が直面するグローバルヘルス課題に焦点を置いてHPSRの役割について議論しました。はじめに [瀧澤郁雄](#) 主席研究員(緒方研究所)が、グローバルヘルス課題に対するエビデンスや政策提言形成においてHPSRにおける日本の貢献を向上させることの重要性について述べました。 [Kumanan Rasanathan](#) 氏(the Alliance for Health Policy and Systems

Research, Executive Director)は、過去30年間を振り返りHPSRの発展、方法論、影響について論じました。多くの国での経験から人々を中心とした保健システムや研究についての検討、学問分野を統合したHPSRの重要性などについて述べました。 [坂元晴香](#) 客員研究員(緒方研究所、聖路加国際大学公衆衛生大学院客員准教授)は、日本がHPSRにどのように貢献できるか、国立健康危機管理研究機構の設立経緯やG7サミット開催に合わせた日本のグローバル・ヘルスへの貢献に関する研究を事例に言及しました。すべての登壇者が日本の経験や教訓を世界に共有する重要性とHPSRのさらなる研究の必要性を述べ、HSR2024がその絶好の機会となることを強調しました。(研究所 鈴木)

2024年11月に長崎で開催される保健政策・システム研究の国際シンポジウム([HSR2024](#))には、世界各国の大学、研究者、政府、WHO等の国際機関、財団等1,500名以上の参加が見込まれ、保健医療制度や政策について、さまざまな視点から議論される予定です。5月には主催団体関係者が来日し、長崎で打合せ・会場視察が行われました。

JICAは共同ホストとしてシンポジウム運営に貢献するとともに、各種セッション等を通じて、JICAのグローバルヘルスへの貢献を発信予定です。現在参加登録受付中ですので、ご関心ある方はぜひご参加検討ください。またシンポジウムの様子は、[ホームページ](#)や保健だよりを通じても報告していく予定です!

(グローバルヘルスチーム 西村)

【HSR2024開催概要】

日程: 2024年11月18日~22日

場所: 出島メッセ長崎

主催: Health Systems Global(HSG)

共同ホスト: 長崎大学、JICA

テーマ: “Building Just and Sustainable Health Systems Centering People and Protecting the Planet”



5月に来日したHSG理事会メンバー、長崎大学関係者によるJICA表敬



ゆくひと くるひと



今年4月に新入職員として入構し、広報タスクに参加させていただきました。学生時代に保健だよりを読み、世界の保健事情やJICAの協力について勉強していたため、今度は内部から制作に関われること、大変嬉しく思います。私自身も学ばせていただきながら、世界の保健ニュースを楽しく、わかりやすくお伝えできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(保健1チーム 岸野)

4月より広報タスクに参加することになりました。保健だよりの編集作業を通じて各国の各保健分野の活動を学ぶことができるのが楽しみです。また皆様にも最新の情報をわかりやすくお伝えできるように努めます。これからどうぞよろしくお願いいたします。(保健3チーム 河野)

5月に人間開発部に着任し、新しく広報タスクに参加させて頂くことになりました。皆さまに、JICAの保健分野に対する取り組みを、分かりやすく伝えられるように努めます。私自身もニュースレター作成作業を通して、各国の活動を学べることも楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。(保健2チーム 小林)

5月から新しく広報タスクメンバーに参加させていただきました。読者から編集側になることに責任を感じておりますが、編集や発行といったタスクの活動を通じ、私自身も学びながらわかりやすい情報発信をできたらと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。(保健4チーム 坂本)

保健グループ What's Up (2024年5月～7月)

最近の保健グループス関連の動きを掲載します！

【技術協力】

- ルワンダ「母子・地域保健サービスの質向上プロジェクト」(2024年5月、RD締結)
- ベトナム「遠隔医療技術を活用した医療人材能力向上体制強化プロジェクト」(2024年7月、専門家派遣開始)

おまけ写真 第14回母子手帳国際会議の様子

1ページ目で紹介した5月9日・10日にフィリピン・マニラで開催された母子手帳国際会議の様子は、下記リンク先から視聴できます！ぜひ覗いてみてください。
<https://conference.mchhandbook.com/>



Dikabiaganga氏と渡邊氏によるガボンの発表



Oscar氏によるブルンジの発表



定森氏によるアンゴラの発表

編集後記

保健だより第66号をご覧いただきありがとうございました。今号では、母子手帳国際会議に始まり、各国への協力やセミナー情報等をご紹介しました。世界の保健分野の協力について、みなさまにご関心を持っていただけると嬉しいです。私も自身の担当国以外でのJICAの保健分野の協力について学ぶことができ、大変楽しく編集させていただきました。記事執筆にご協力をいただいたみなさま、ありがとうございました。次号の保健だよりもどうぞお楽しみに！
(保健1チーム 岸野)



保健だよりで取り上げてほしい特集テーマを募集します！
人間開発部 kadaishien-ningen@jica.go.jp

までお寄せください！
ご意見ご感想もお待ちしております！